

県民の森の植物 63 オヒョウ (ニレ科)

落葉高木。ハルニレ（春楡）やアキニレ（秋楡）の仲間の木です。葉っぱが角が生えたような不思議な形は、ウルトラマンの顔や、キツネにも見えてきます。顔の表面は固めの毛が生えていて、触るとザラザラしています。魚のカレイに似た「オヒョウ」という魚がありますが、関係ありません。「オヒョウ」は本種の樹皮を意味するアイヌ語の「オピウ」が由来。寒さに強く、北海道に多い木ですが、全国に自生しており、このあたりの山や園内でも見かける木です。

花は、3-4月ごろ、葉の展開前に先に咲きます。紅色の小さな花の集まりが球状になっています。地味なので、気付かれることがあまりないのですが、よく見ると可愛らしい花です。実は翼果。小さな種のまわりに翼を持ち、6月ごろには熟して風に乗って飛んでいきます。材は、家具や器具材として利用され、アイヌでは強靱な樹皮の繊維を採取して「厚司織（アットウシオリ）」という布を織っていました。

葉っぱには、時々、不思議な形の「虫こぶ」が出来てよく目立ちます。秋には黄色に黄葉して美しく、押し葉にすると色々遊べそうです。オヒョウは、葉っぱがとても気になる木。散策路 A コースや七滝登山道で見られます。



樹皮 4月3日



花 4月19日



若い実 5月28日



新葉 5月15日



虫こぶ 6月18日



黄葉の落ち葉 9月19日